

- (5) “点検抽出”，“車検抽出 1”，“車検抽出 2” の各 AP で更新する，“WK1”，“WK2” の各テーブルには，ログなしモードを指定すること
- (6) “WK1”，“WK2” の各テーブルは，ワークテーブルであり，バックアップの対象外とすること。これらのワークテーブルは，オンライン時間帯の終了後，バッチ処理を開始する前に再定義して使用する。

表 5 バックアップの取得スケジュール（未完成）

契機 テーブル名	顧客	委託先	契約	受託	車両	予定表	進捗	実施結果	点検率	報告	記録簿
T1											
T2											
T3								○			○
T4						○					
T5					○	○	○				○
T6											

注記 T1～T6 は，図 2 中の各契機を示す。

2. サーバ障害時の RDBMS 再開始

RDBMS 再開始に備えて，バッチ処理中のチェックポイントに関する検証を行った。
なお，T1～T6 は図 2 中の各契機を示す。

(1) RDBMS 再開始後の運用

“実施登録” AP と “車検抽出 2” AP の実行中に，サーバ障害が発生した場合に，RDBMS 再開始後にどのような対処が必要になるか，チェックポイントの取得状況に応じた対処を整理した。

契機 T2 でチェックポイントを取得している場合，“ ” テーブルを した後，“ ” AP，“ ” AP を再実行する。また，“ ” AP も再実行する。その後，契機 T3 以降のバッチ処理を継続する。

契機 T2 でチェックポイントを取得していない場合，チェックポイントを取得している場合の対処を行う前に，“ ” テーブルを した後，“ ” AP を再実行しておく必要がある。

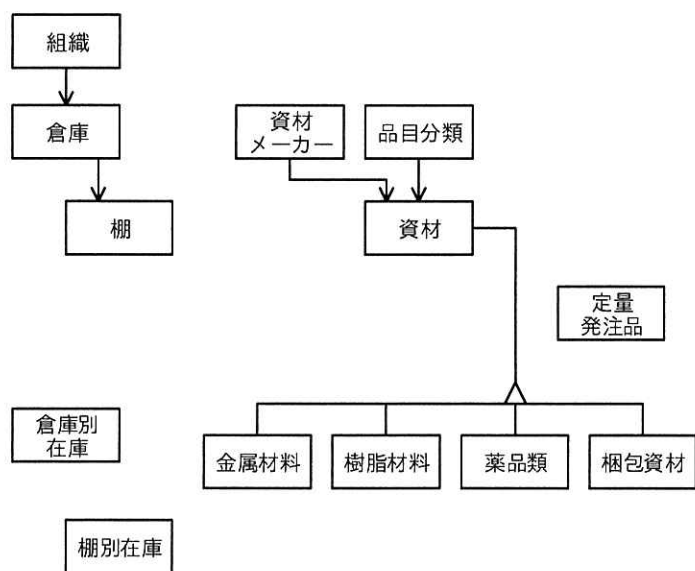


図 1 マスター及び在庫の領域の概念データモデル（未完成）

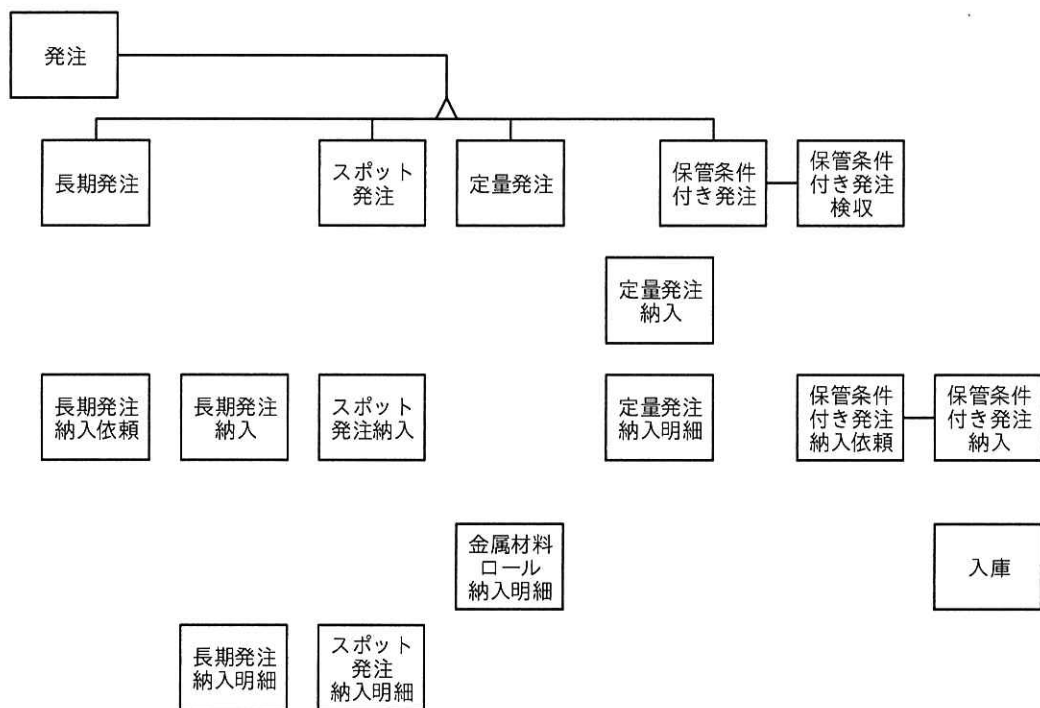


図 2 トランザクションの領域の概念データモデル（未完成）